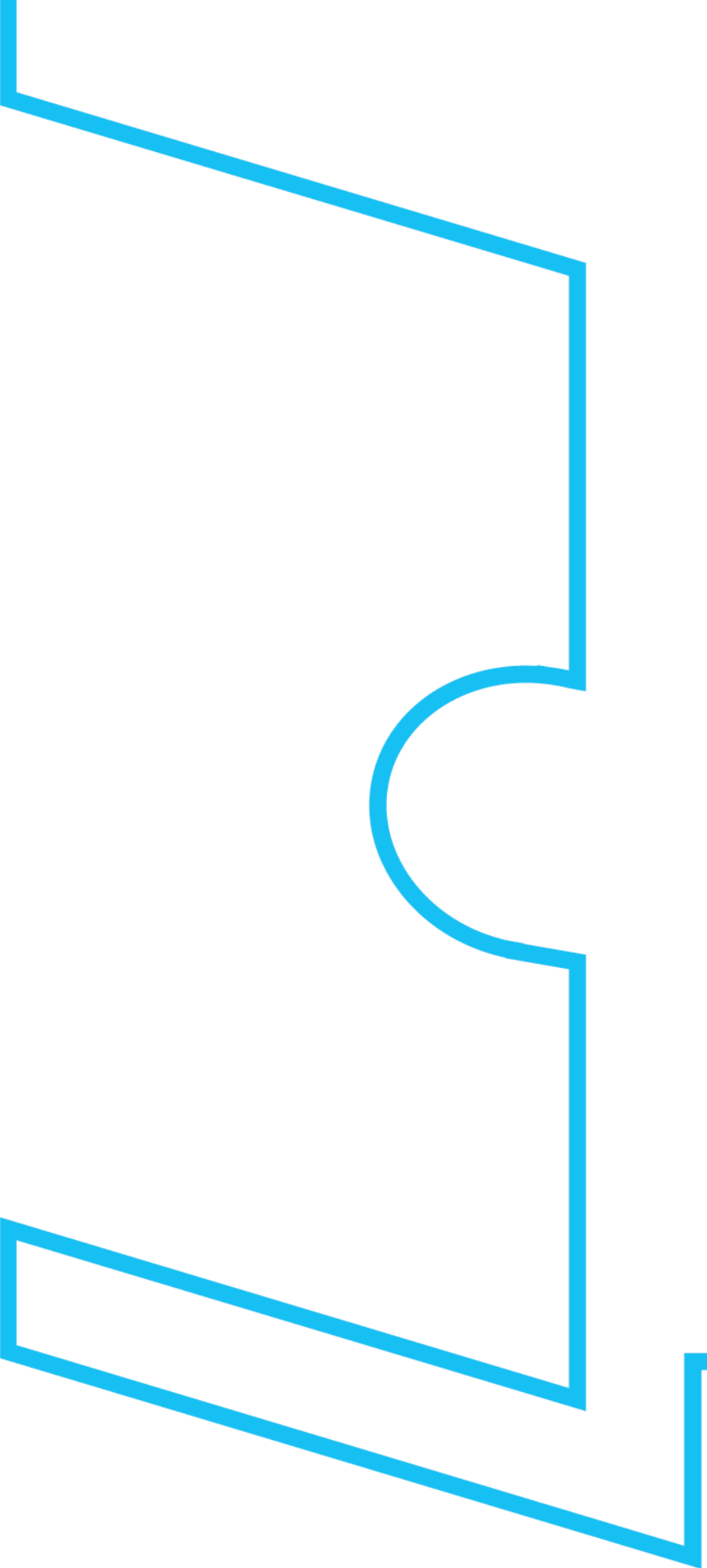


DECOBOCO Base Co., Ltd



インパクトマネジメントレポート 2023

IMPACT MANAGEMENT REPORT

凸凹が活きる社会を創る。

でこぼこ 凸凹がとびらをひらく。

DECOBOCO BASE co.ltd.

私たちの活動が、
「どれだけ社会に貢献できているのか」
をまとめました。

誰しもが心の中で、人の役に立ちたい、喜んでもらいたいという気持ちを持っていると思います。この誰もがもつ「利他の心」を、私もソーシャル・シリアル・アントレプレナーとして社会課題に立ち向かうときの大切な基準にしています。みんなが「ゆたかさ」を実感できる社会を創るために、第二の人生として、より社会的意義が感じられる事業に取り組みたいと起業したのが、デコボコベースです。当社は主に「発達障害」によって生きづらさを抱える人が、社会的・経済的に自立できるよう支援する事業をおこなっ

ています。すべての人の「特性」を「凸凹(デコボコ)」と表現し、「凸凹が生きる社会を創る。」がコーポレートビジョンです。営利のみを追求しがちな株式会社ですが、私たちは必要以上に売上・利益にとらわれず「自分たちの存在が、社会にどんな影響を与えているのか」を重視していきたいと考えています。そんなソーシャルカンパニーとしての活動の成果を、売上・利益に並ぶ新たな重要指標「ソーシャルインパクト」として社会に発信し続けます。

代表取締役 CEO

上 史



代表プロフィール CEO's Profile

● ● ● 略歴

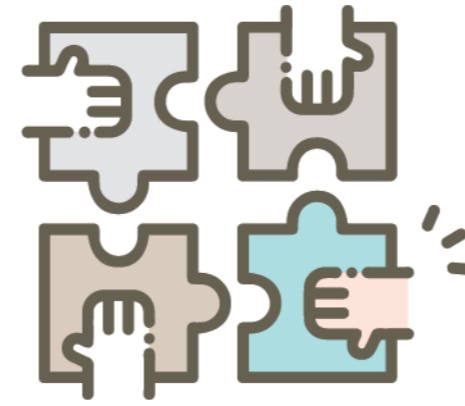
- 1971年 教育者の両親の元に生まれる。日本の画一的な教育になじめず、高校生の時にアメリカに留学帰国後は上智大学文学部教育学科に入学し、経営者を志して1994年の在学中に起業
- 2004年 創業したアルファグループ株式会社 [3322] の代表取締役社長として、JASDAQ 上場へ導く
- 2008年 さらに経営の研鑽をつむため、多摩大学大学院で MBA を取得
- 2011年 3.11 震災ボランティアに参加したことをきっかけに、ソーシャルビジネスに関心をもつ
- 2014年 同社教育事業を事業譲受し、創業2社目となるハッピーテラス株式会社(現:デコボコベース株式会社)を設立
- 2015年 障害福祉の知見を深めるため、星槎大学大学院(通信)で教育学修士を取得

役職・委員等歴任

- ゲンダイエージェンシー株式会社 [2411] 社外取締役 (2013年~2020年)
- 株式会社オロ [3983] 社外取締役 (2017年~2022年)
- シンクタンク・ソフィアバンク「ソフィアバンク・イノベーター」(2022年~現在)
- 上智大学非常勤講師 (2022年)

01. 発達障害に関する基礎知識 Fundamental knowledge

発達障害・多様性・持続可能な社会



● ● ● 発達障害とは

発達「障害者」と聞くと、いわゆる「普通の人」と比べてどこか劣っている、というイメージがあるかもしれません。しかし、発達障害は「多数派の右利きと少数派の左利き」のような「多様性の一つ」だと考えられ始めています。まだまだ日本でこの考え方は浸透していませんが、これからの持続可能な社

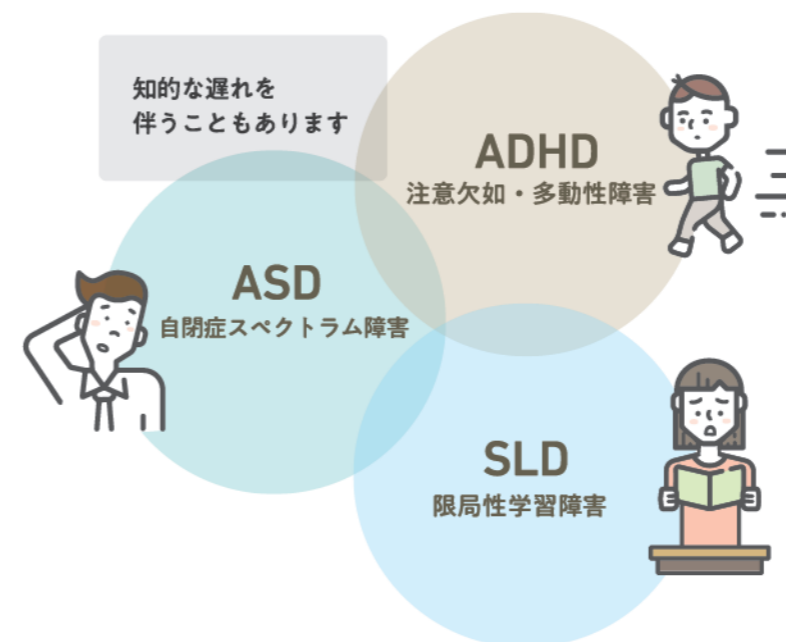
会では、全ての人が「ちがいを活かして活躍できる「共生」が必要不可欠であり、社会における「発達障害」というものの見方、受け止め方を変えていくが必要になってきています。

発達障害の特性とそれを見る視点

● ● ● 代表的なもの

発達障害の代表的なイメージとして、「空気が読めない」ASD、「落ち着きのない」ADHD、「特定の勉強が極端に苦手」なSLDと言われる三つの障害があげられます。これらの特性も、その人が社会にうまく適応できていないときには「欠点」として扱

われますが、社会的に成功していれば「他人に惑わされない」「好奇心旺盛で行動的」「勉強以外で力を発揮する」と称賛されるかもしれません。つまり、これらの特性は「見方によって価値が変わる」もののなのです。



☑ ASD: 自閉症スペクトラム障害

他人の感情を読み取るのが苦手、はっきり具体的に言われないと理解しにくい、こだわりが強く感覚が独特、などの特徴が出やすくなります。一方で、うまく特性が活かされると、他人に左右されず、論理的で、こだわりのオリジナリティを発揮できることもあります。

☑ ADHD: 注意欠如・多動性障害

自分の行動にブレーキをかけづらく、判断が早すぎたり、いけないと分かっているにもかかわらずやっちゃったり、という行動をとりがちです。一方で、その「素早い判断」や「高い行動力」が、逆に社会的な成功につながる人もいます。

☑ SLD: 限局性学習障害

知的な遅れや視力聴力の問題はないのですが、特定の学習が苦手な面があります。例えば文字が読みづらい、計算が極端に苦手、などです。一方で、現在ではテクノロジーで解決できることも多く、「学校の勉強」が必要でない分野、例えばアートの世界で活躍する、というパターンもあります。

Key Words

ソーシャルインパクト 発達障害 ASD ADHD SLD

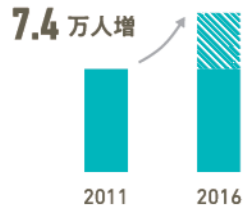
02. 発達障害児(子ども)を取り巻く現状

Current status - Children

FACT 01

発達障害と診断された、又は発達障害の可能性のある児童数は、増加傾向

[発達障害と診断された人数 (18歳未満)]

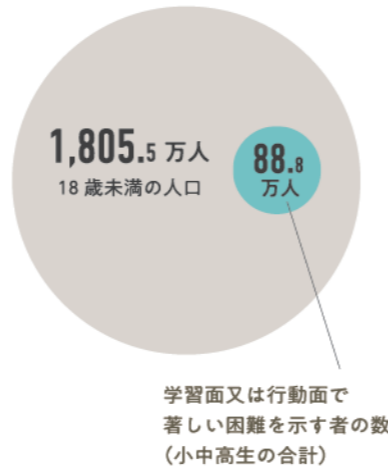


2016年の調査によると、発達障害と診断された18歳未満の人数は約21万人で、2011年の同調査より7.4万人増加しています(※1)。

※1: 生活のしづらさなどに関する調査(2011年/2016年)

2022年に文部科学省が実施した調査では、知的発達に遅れはないものの、学習面又は行動面で著しい困難を示すとされた小中学生の割合は8.8%、高校生の割合は2.2%です。この数字を当てはめると、2021年10月現在の総人口のうち、18歳未満の人口は1,805.5万人。推定される学習面又は行動面で著しい困難を示す者の数は小中学生で82.3万人、高校生で6.5万人と考えられます(※2)。

※2: 通常の学級に在籍する発達障害の可能性のある特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査(2022年) / 学校基本調査(2022年)

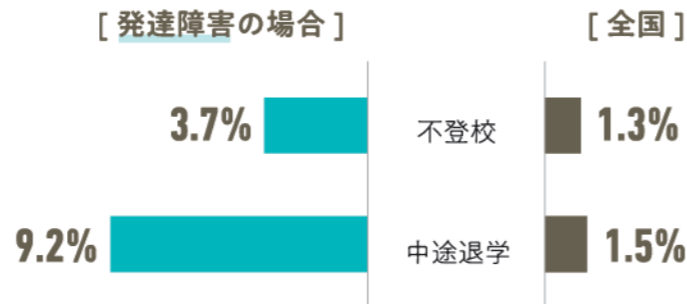


FACT 02

発達障害児の不登校率・退学率は高い傾向にある

2014年の調査では、発達障害が疑われる児童生徒が不登校となった割合は3.7%であり、全国の小中学校及び高等学校における不登校生徒児童の割合1.3%の約3倍、高等学校に限定すれば約4倍です(※3)。また、同調査では、中途退学をした発達障害が疑われる生徒の割合は9.2%であり、全国の高等学校における中途退学率1.5%の約6倍でした(※3)。

※3: 発達障害者支援に関する行政評価・監視結果報告書(2014年)



FACT 03

発達障害児への支援のニーズは、今後も増えていくと予想される



1989年の調査では、放課後等デイサービスの事業所数は、政令指定都市・中核市等では10カ所以上が90%を超えているのに対し、町村では0カ所が40.6%となっており、地域によっては事業所を選べない状況です(※4)。

※4: 放課後等デイサービスの実態把握及び質に関する調査研究報告書(2020年)
 ※5: 障害児通所支援の在り方に関する検討会報告書(2021年)

一方で、文部科学省の調査によると、小中学校において通級による指導を受けている児童生徒数のうち、発達障害の児童生徒数が、2014年~2019年の間に約2倍となっています(※5)。

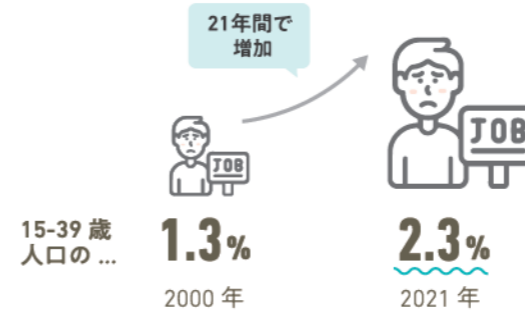
03. 発達障害者(大人)を取り巻く現状

Current status - Adults

FACT 01

若年層のニートや引きこもり、求職活動に困難を感じている若者は増加傾向

[15歳~39歳の未就業者の割合]



2021年度、15-39歳の若年層の未就業者は75万人。15歳~39歳人口に占める若年層の未就業者の割合は、2000年の1.3%から2021年では2.3%と増加(※6)。

若年層の未就業者が求職活動をしない理由として、「病気のけがのため」を除くと、「希望する仕事がありそうにない」「知識・能力に自信がない」「探したが見つからなかった」の回答が多く見られました(※6)。

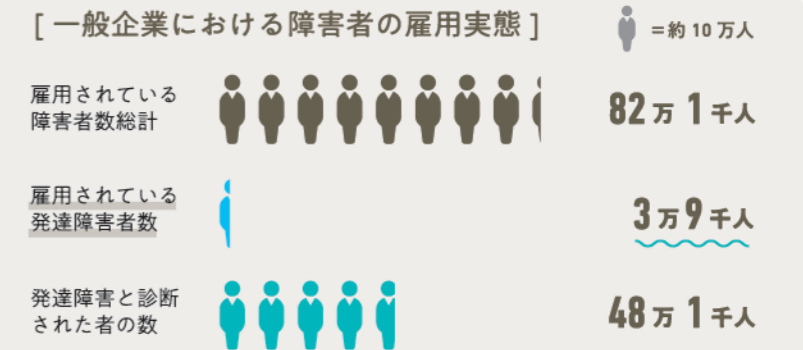
※6: 労働力調査(2021年)

FACT 02

雇用されている発達障害者数、法定雇用率を満たしている企業数はまだ少ない

2016年12月1日現在における、医師から発達障害と診断された者の数は48万1千人(※7)。2018年の調査によると、従業員規模5人以上の事業所に雇用されている障害者数は82万1千人。うち、精神障害者は20万人。発達障害者は3万9千人にとどまります(※8)。また、法定雇用率の達成企業の割合は47.0%にとどまります(※9)。

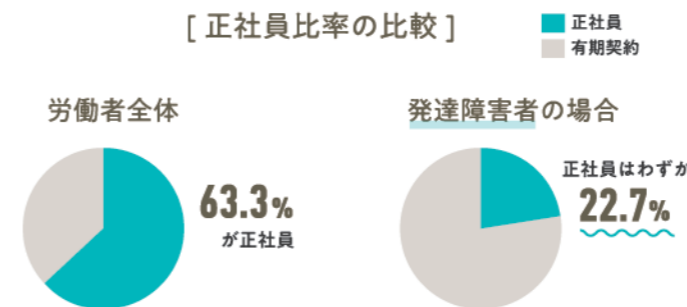
※7: 生活のしづらさなどに関する調査(2016年)
 ※8: 障害者雇用実態調査(2018年)
 ※9: 障害者雇用状況の集計結果(2021年)



FACT 03

就業しても、発達障害者が自立した生活を維持することは難しい場合もある

[正社員比率の比較]



発達障害者の正社員率は、22.7%となっており、労働者全体に対する正社員率63.3%より、著しく低い水準となっています。なお、雇用されている発達障害者のうち、約半数である47.0%は有期契約です(※10、※11)。

障害者雇用の発達障害者の平均賃金は、12万7千円となっており、自立した生活の維持が難しくなっています(※10)。

※10: 障害者雇用実態調査(2018年)
 ※11: 労働力調査(基本集計)(2021年)

04. デコボコベースの事業紹介と成果

About us and achievements

●●● 当社の5つのブランドとその事業



ハッピーテラスキッズ

発達に気になる未就学児を対象にした療育をおこなっています。ハッピーテラスキッズでは、楽しく学べるプログラムと、子ども一人ひとりに合わせたアプローチで、「自信」をもたせ「できる」を増やすことを目指す支援を提供します。

[児童発達支援: 都道府県認可の障害児通所支援]



ハッピーテラス

発達に気になる小学生から高校生を対象にした療育をおこなっています。ハッピーテラスでは、身体・学習・生活・社会性のスキルトレーニングと、子ども一人ひとりに合わせたアプローチで、「自信」を持たせ「自立」を目指す支援を提供します。

[放課後等デイサービス: 都道府県認可の障害児通所支援]



ディーエンカレッジ

職業生活に入る前の段階の障害のある方を対象に、自立した日常生活や社会生活を営むための支援をおこなっています。ディーエンカレッジでは、自信を深めるスモールステッププログラムと、自立力を養うカリキュラムで、「あなたらしい将来の自己決定」を目指す支援を提供します。

[自立訓練(生活訓練): 都道府県認可の訓練サービス]



ディーキャリア

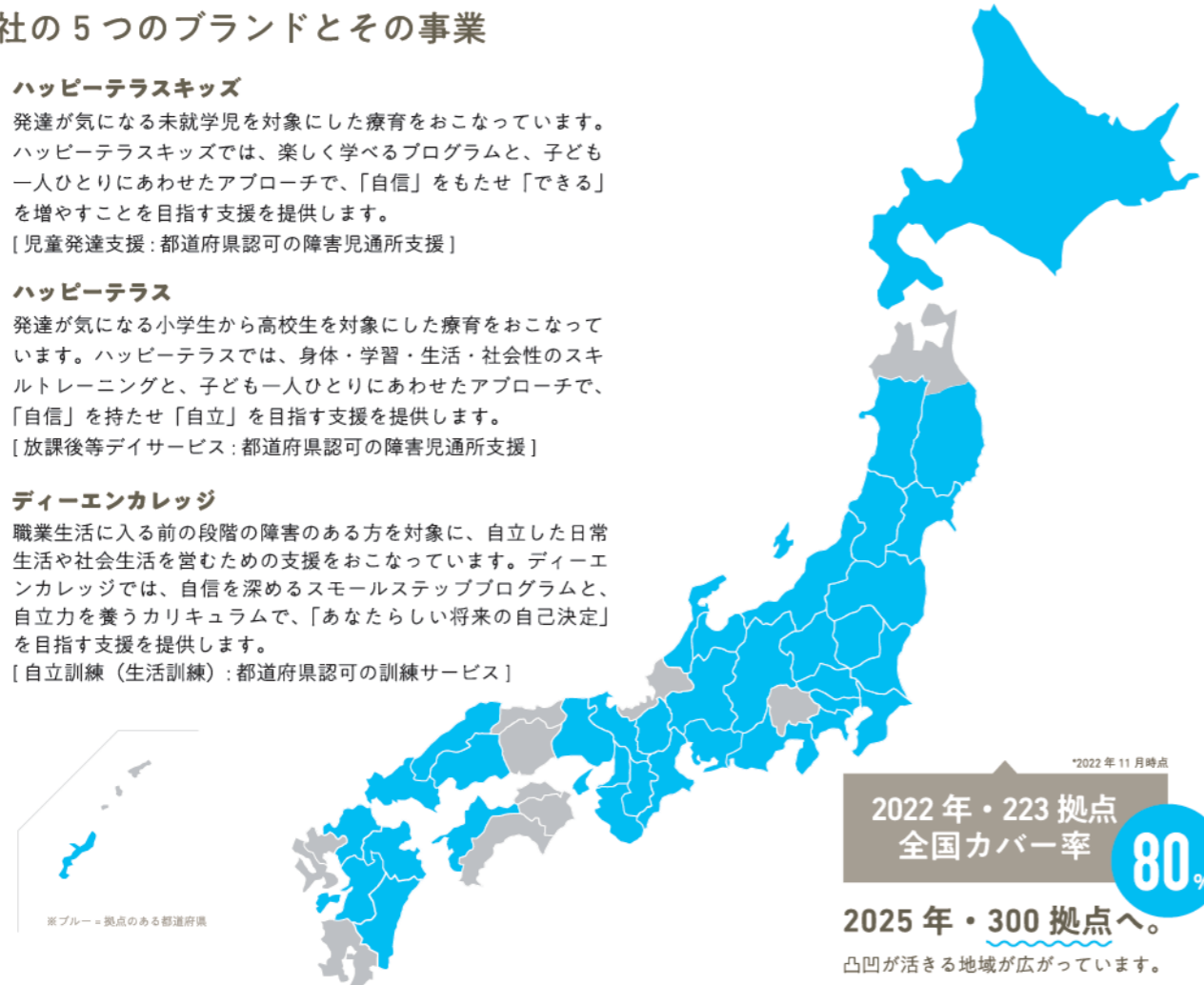
就職を希望する障害のある方を対象に、就労支援をおこなっています。ディーキャリアでは、発達障害の特性による働きづらさをフォローするプログラムと、自分の価値観や適職を見極めるカリキュラムで、「やりがいを感じられる仕事探し」×「あなたらしい働き方探し」を目指す支援を提供します。

[就労移行支援: 都道府県認可の訓練サービス]



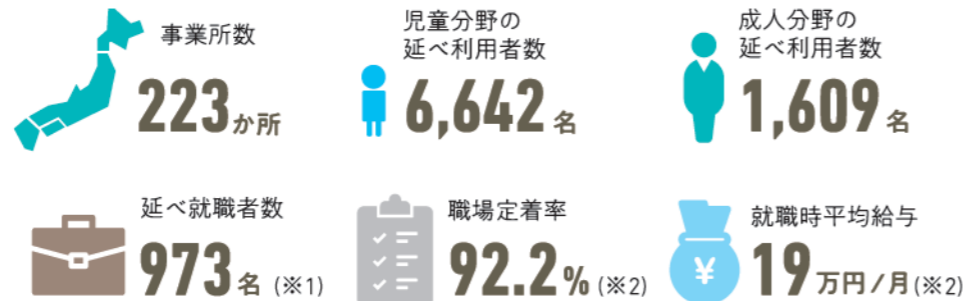
凸凹ガイド [デコボコガイド]

障害児通所支援施設(児童発達支援、放課後等デイサービス等)の情報ポータルサイトの運営をおこなっています。凸凹ガイドでは、「さがす」をもっと快適に。」をポリシーに、障害福祉サービス利用を検討する保護者の方が、おさまらにぴったりな施設を選ぶためのサービスを提供します。



これまでの成果

デコボコベースでは、売上高・利益額以外に右図のような成果を社会に残してきました。事業所の数や利用者の数は、売上・利益に直結する指標でもあり、「ソーシャルインパクト」の指標と同様に、引き続き大切にしています。



※1: 2022年11月時点ディーキャリア累計実績 ※2: 2021年度ディーキャリア実績

Key Words

ハッピーテラスキッズ ハッピーテラス ディーエンカレッジ ディーキャリア 凸凹ガイド

05. 「インパクト測定&マネジメント」への取り組み

Why Impact management?

インパクト測定とインパクトマネジメント

世界的に「持続可能な社会」への関心が集まるなか、企業も、収益性などの経済活動だけでなく、社会への貢献度によって評価される時代になりました。企業の活動やサービスが、社会にどのような良い影響を与えているかをわかりやすく見える形にし、測定することを「インパクト測定」、それらを事業の改善などに活かし、社会に与える良い影響をさらに高めていくことを「インパクトマネジメント」といいます。



デコボコベースでは、私たちが目指す、発達障害のある子どもと大人、およびそのご家族にとっての望ましい状態を最終ゴールとし、その実現のために各支援サービスをおこなっています。それらが最終ゴールまでの過程で、どのようにつながり、影響していくかを測定し、定期的なモニタリングを実施します(7~10ページ、ロジックモデル参照)。この評価結果を支援サービスの改善に活用することで、私たちの社会的貢献をより一層拡大させていきます。

成果指標 (KPI)

当社が提供する支援サービスをご利用いただくことで得られる、発達障害のある子どもと大人、およびそのご家族にとっての望ましい変化を把握するため、下記の項目を可視化し、持続的な改善に努めてまいります。

	目標	指標 (KPI)	結果	備考
子ども	★ 子どもの自己肯定感が向上する	他者比較で自己の価値を測る2つの設問にてポジティブな回答の割合	66.0%	保護者へのアンケート(※)
	★ 子どものコミュニケーション力が向上する	コミュニケーションに関する4つの設問にてポジティブな回答の割合	86.2%	保護者へのアンケート(※)
	★ 子どもの成長を実感できる	「利用により成長を感じられた」と回答した割合	95.6%	保護者へのアンケート(※)
	★ 育児における精神的負担が減る	「利用により精神的負担が減った」と回答した割合	89.8%	保護者へのアンケート(※)
	★ 子どもの特性に合った学び方や進路を見通すことができる	「利用により見通すことができた」と回答した割合	68.6%	保護者へのアンケート(※)
大人	★ セルフケアができる	「利用によりセルフケアをするようになった」と回答した割合	81.7%	利用者へのアンケート(※)
	★ 他者との摩擦が少なくなる	「利用により摩擦が少なくなった」と回答した割合	49.5%	利用者へのアンケート(※)
	★ やりたい(なりたい)ことがみつかる	「利用によりみつかった」と回答した割合	65.1%	利用者へのアンケート(※)
	★ 自分にあった進路や職業を選択できる	ディーキャリアの年間就職者数	361人	2021年度実績
	★ 自分らしく働き続けることができる	ディーキャリア卒業者の職場定着率(就職後6カ月)	92.2%	2021年度実績
	★ 充実した余暇の過ごし方がみつかる	「利用により休日が充実するようになった」と回答した割合	37.6%	利用者へのアンケート(※)
	★ ストレスが軽減される	「利用によりストレスが少なくなった」と回答した割合	56.9%	利用者へのアンケート(※)

(※) ハッピーテラスを利用される子どもの保護者、またはディーキャリアを利用される当事者にアンケートを実施。目標項目に関して、事業所の利用により変化がみられたかどうかの度合いを5段階で評価をしていただく。5段階中、ポジティブな変化が見られた上位2段階までの回答数を合算した割合を「ポジティブな回答の割合」とする。

Key Words

インパクト測定 インパクトマネジメント 成果指標 (KPI) 支援サービスの成果

06. ロジックモデル [発達障害児 - 子ども]

Logic Model - Children

[指標テーブル]

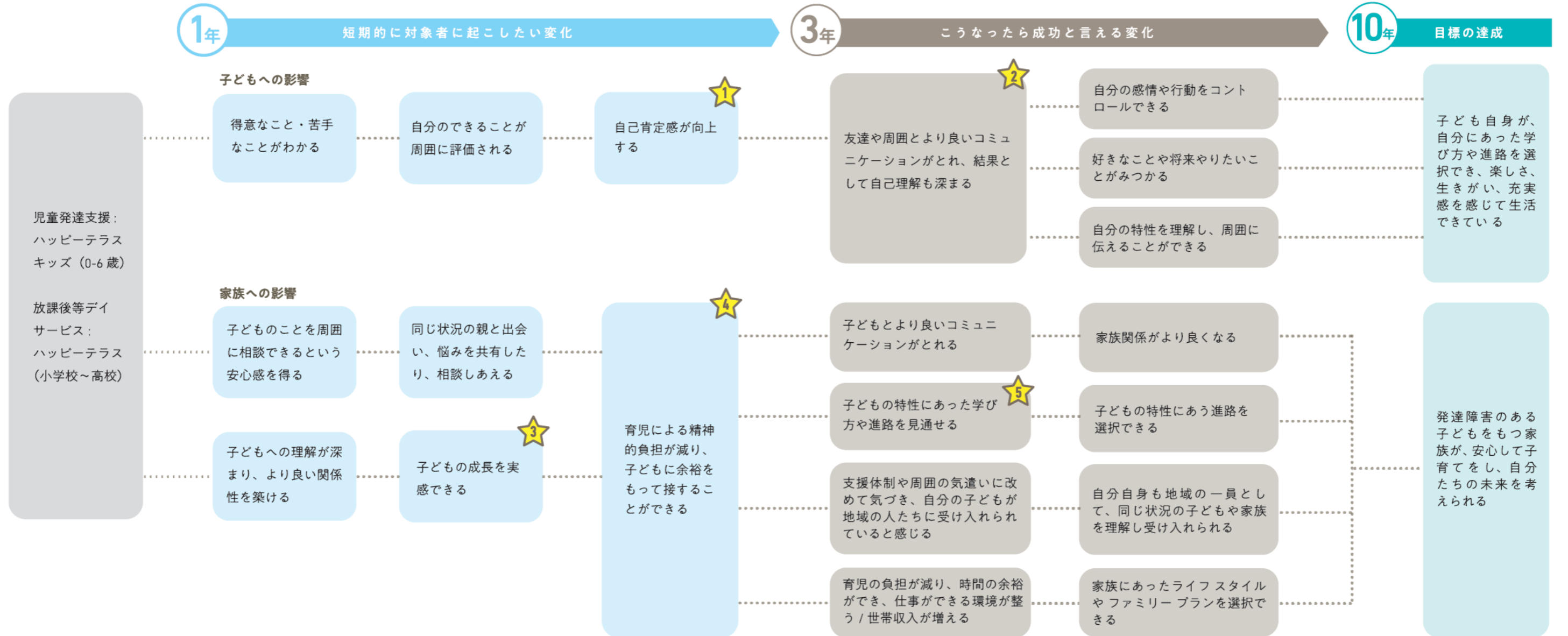
目標	指標 (KPI)	結果
★ 子どもの自己肯定感が向上する	他者比較で自己の価値を測る2つの設問にてポジティブな回答の割合	66.8%
★ 子どものコミュニケーション力が向上する	コミュニケーションに関する4つの設問にてポジティブな回答の割合	86.2%
★ 子どもの成長を実感できる	「利用により成長を感じられた」と回答した割合	95.6%
★ 育児における精神的負担が減る	「利用により精神的負担が減った」と回答した割合	89.8%
★ 子どもの特性に合った学び方や進路を見通すことができる	「利用により見通すことができた」と回答した割合	68.6%

発達障害の子どもとその家族へのインパクト

● ● ● 「支援サービス」から「目標達成」までのつながり

当社のサービス（ハッピーテラスキッズ、ハッピーテラス）を利用することで、発達障害のある子どもとそのご家族にどのような変化が生まれるのか、また、その変化が次にどのような変化を生み、目標の達成につながるのか。その過程をロジックモデルで可視化しました。

★ 成果を測る指標 [KPI] に星マークがついています



Column 01.

自己肯定感、自己効力感、自尊心の違いとは？

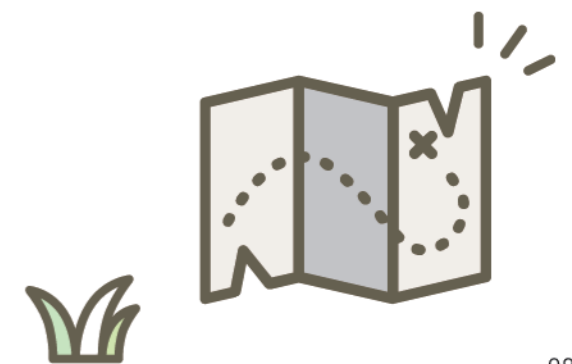


福祉や教育の世界だけではなく、最近ではビジネスの世界でも、「自己肯定感」という言葉はよく使われるようです。しかし、よく見かける言葉の割には、その意味、定義はずいぶんあいまいです。インターネットで「自己肯定感」という言葉を調べてみると、色々な人

が色々な定義でこの言葉を使っています。おおまかには「自分のことをポジティブに捉えられる力」と言えるでしょう。そんな中、人が社会（集団）の中で適応しながら生きていくには、「ポジティブさだけでは十分ではない」という議論があります。その中で大切

だとされているのは、「人の役にたっている」という実感である「自己効力感」、「自分のポジティブな部分だけでなくネガティブな所も受け止められている」状態である「自尊心」、これらのバランスが大切なのではないか？ということ。自分を大切に、他者

を大切に、失敗して落ち込んでも前に進み続けていける。一人でも多くの人が、そんな力をもって、「支えあって生きる」ということを考えてほしい。そう思って私たちは日々、福祉の仕事と向きあっています。



07. ロジックモデル [発達障害者 - 大人]

Logic Model - Adults

[指標テーブル]

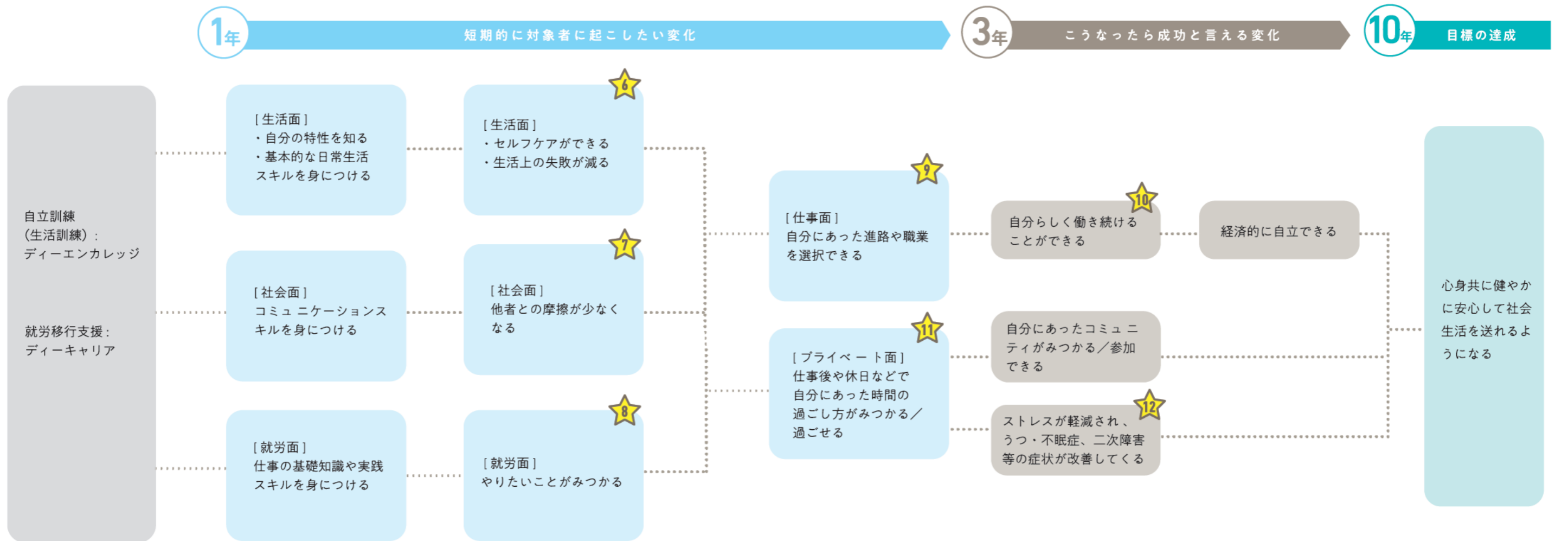
目標	指標 (KPI)	結果
★ セルフケアができる	「利用によりセルフケアをするようになった」と回答した割合	81.7%
★ 他者との摩擦が少なくなる	「利用により摩擦が少なくなった」と回答した割合	49.5%
★ やりたい (なりたい) ことがみつかると	「利用によりみつかった」と回答した割合	65.1%
★ 自分にあった進路や職業を選択できる	ディーキャリアの年間就職者数	361人
★ 自分らしく働き続けることができる	ディーキャリア卒業者の職場定着率 (就職後6ヵ月)	92.2%
★ 充実した余暇の過ごし方がみつかると	「利用により休日が充実するようになった」と回答した割合	37.6%
★ ストレスが軽減される	「利用によりストレスが少なくなった」と回答した割合	56.9%

発達障害の大人へのインパクト

● ● ● 「支援サービス」から「目標達成」までのつながり

当社のサービス (ディーキャリア、ディーエンカレッジ) を利用することで、発達障害のある大人の当事者にどのような変化が生まれるのか、また、その変化が次にどのような変化を生み、目標の達成につながるのか。その過程をロジックモデルで可視化しました。

★ 成果を測る指標 [KPI] に星マークがついています



Column 02.

（ ストレス社会で大切なこととは？ ）

現代社会はよく「ストレス社会」と言われ、多くの方がストレスで体や心を壊してしまっています。では、この社会の何がストレスになってしまうのでしょうか？それは「ほとんど全てのことがストレス要因」と言ってよいかもしれません。何百万年前かに人類が誕生した時、明るい夜、時速 60 キロでの移動、

冬でも汗をかくほどに暖かい下着 ... そんなものは何一つ想定されていませんでした。便利で快適な社会、その裏側では、常に想定外のストレスがかかっています。もちろん、何百年前にも、飢えや寒さ、病気といったストレスは常にありました。つまり、人間は、元々「ストレスとともに生きること」が前提

の生き物とも言えます。よく「ストレスに打ち勝つ」「ストレスフリー」などという言葉が聞かれますが、それは生物として自然な状態ではありません。本当に必要なのは、ストレスと「共生」していくこと、ではないでしょうか。「ストレスなく生きる」ことを目指すのではなく、「ストレスがあっても生き続け

ていける」生き方を見いだす。そのために必要なことが「自尊心」であり、失敗に対しても「まあいいや」と受け止められる力、失敗した自分を嫌いにならない力なのです。それは「自分を好きになる力」とはまた別の、現代社会の中で生き続けていく上でとても大切な力だと私たちは考えています。





企業理念 Corporate Philosophy
教育と福祉で、ゆたかさを広める。

ビジョン Vision
凸凹が活きる社会を創る。

社名 デコボコベース株式会社
所在地 〒108-0023 東京都港区芝浦 4-12-31 VORT 芝浦 Water Front 6F
設立 2014年7月
資本金 26,547,915円
代表取締役 上岳史

<https://decoboco-base.com/>

当社のサイトをぜひご覧ください。



受賞歴など Awards

- ▶2018年4月 オルタナ「グリーン・オーシャン大賞」優秀賞
- ▶2018年11月 ビジネスチャンス「FCショー優秀賞」
- ▶2019年11月 子ども虐待防止「オレンジリボン運動」支援企業に登録
- ▶2021年1月 「KAICAアクション宣言」組織に認定
- ▶2021年2月 オルタナ「サステナブル★セレクション第3期」一ツ星に選定
- ▶2021年3月 第11回「日本でいちばん大切にしたい会社」大賞 審査委員会特別賞
- ▶2022年4月 EO ESGアワード最優秀賞